

教師生活60年の記録

～書くことで思いを伝える～



令和4年 春

浦 壁 英 紀

目 次

はじめに	1
1. 文部省教員海外研修	2
(1) 海外研修時の「視察日誌」	2～3
(2) 海外研修の成果	4～5
(3) 北欧見聞記（特別寄稿）	6～9
2. 良い教師の条件	10～11
3. 教育の二面性	12
4. 己に克つ	12
5. 平成三年度入学式「式辞」	13～14
6. 平成四年度卒業式「式辞」	14～15
7. 豊かな心	16
8. 経験に学ぶ	17
9. 教えることと育てること	18
10. 平成五年度入学式「式辞」	19～20
11. 新任のご挨拶	20
12. 本田宗一郎さんのこと	21
13. 日頃のご支援に感謝して	22～23
14. 人間として大事なもの	23～24
15. 平成七年度卒業式「式辞」	25～27
16. 平成八年度入学式「式辞」	28～29
17. やさしさとたくましさ	29～30
18. 「心の教育」雑感	30～31
19. 考えさせる数学教育	31～32
20. 工業教育に携わって	33
21. 平成九年度卒業式「式辞」	34～35
22. 社会への関心を	36～37
23. 生活に哲学を	38
24. 前期の反省と後期への心構え	39
25. 「ともしびの灯」に誓う	39
26. 新潟リハビリテーション専門学校の思い出	40
27. 日常を写す	41～44

（注）なるべく年代順にしましたが、順不同のところもあります

はじめに

私は、公立学校の教員として38年間勤め、その後ご縁があって私大の学生募集に約1年係わり、私学の専門学校に23年間お世話になり、合わせて62年間も若者の教育に携わってきました。文字どおり、大学を出てからの人生のほぼ全てを教育及び教育に係わる仕事に従事してきたことになります。

なぜこのようにあきもせず長く教育関係に勤めることになったのかと言われれば、やはり若者と接するのが好きだということになります。大げさに言えば「人間が好きだから」ということでしょうか。まあ、これ以外の能力がなかったのかも知れませんが…。

お陰で、85歳近くなり足腰が弱ってきても頭の方は未だ使えるのは公立学校退職後も、今日まで若者や人と接する仕事に携わってきたからと考え、学園に深く感謝を申し上げます。

私の父は教員でした。どんな職業に就くかは、その人の生まれた境遇にもよりますが、「環境は人を創る」と言われるように、親の姿をみて子供は育つのもかもしれません。

ところで、教員は人に話をしたり、ものを書いたりすることが比較的多い職業です。特に管理職になると学校行事での挨拶文を始めPTAだよりや同窓会報など立場上よく依頼されます。それで、これらの自分で書いた文章や聴いた講演など、手元にあった資料を冊子にまとめてみることにしました。

これは、自費出版という大げさなものではなく、あくまでも自分の子供や孫、親戚の子供達更にはごく親しい人に読んでもらい、今後の人生に於いて、何らかのお役に立てば幸いと考えた次第です。正直なところ、この程度のことしか子供達に残せないのです。幸い38年ほど前に、「文部省の教員海外研修」（約1ヶ月）に参加させていただき、当時の記録や写真がありましたので、参考になればと考え、それも載せることにしました。

目次をみて、興味のあるものを読んでいただき、私の考えの一端を知っていただければ幸いです。

令和4(2022)年 1月吉日

1. 文部省教員海外研修

以下の記事は、下記の研修旅行に参加した時のものです：

- ・名称：昭和58年度 文部省教員海外派遣第6団（25名）
- ・期間：昭和58年5月11日～6月9日の30日間
- ・主視察国：デンマーク、ノルウェー、アメリカ（カリフォルニア州）

（1）海外研修時の「視察日誌」

～昭和58年5月12日（木）研修2日目、天候 雨のち晴～

記録者 浦 壁 英 紀

- ・宿 泊 イギリス、ロンドン「ロンドンメトロポールホテル」
- ・日 程 教育文化施設等視察

7：00	ヒースロー空港着	12：00	昼食（利口福大酒楼にて）
8：40	ホテル着（空港よりバス）	13：00	大英博物館、国会議事堂、
9：00	ホテル出発（バス）		テムズ河畔、ウエストミン
	ロンドン塔、バッキンガム宮殿		スター寺院等見学
	タワーブリッジ等見学	16：40	ホテル着
		18：30	夕食（ホテルにて）

・所 感

成田を飛び立って16時間30分。睡眠不足とはいえ、狭い機内での生活から解放されホッとする。ロンドンも日本同様朝の交通渋滞はひどい。風邪をひかぬよう、ホテルで着替えをして再びバスに乗り込む。時差ボケの為か、ロンドン塔でのガイドさんの詳細な史的説明も何となくうつろに聞こえる。

タワーブリッジを背景にして班別写真を撮ったところからようやく頭がはっきりしてきた。バッキンガム宮殿の衛兵の交替儀式は、雨天の為中止とのこと。やむなく宮殿前で写真だけを撮りバスに引き返す。

大英博物館では膨大な資料とその貴重さに、かつての大英帝国の威力を感じ、ウエストミンスター寺院では、建物の壮大さに加え、歴代の国王や女王それに多くの名士の墓が我々見学者の足の下にあるという説明に、改めて国による風俗習慣のちがいを感ずる。

日本を離れて外国で迎える第一夜、果たしてどんな夢を見ることだろう…。

～この日誌は、参加者全員が交替でその日の所感を書いたものです～

～5月29日（日）研修19日目、天候 曇時々小雨～

記録者 浦 壁 英 紀

・宿 泊 アメリカ合衆国 ニューヨーク「ニューヨークスタットラーホテル」

・日 程 グループ視察（ワシントン視察グループ）

（今日は、ニューヨーク市内グループとワシントングループに分かれて視察）

8：00 ホテル出発

視察場所：

12：15 ワシントンのユニオン駅着

国会議事堂、リンカーン記念館

20：00 ホテル帰着

アーリントン国立墓地、ホワイトハウス

ポトマック河畔の桜並木

航空宇宙博物館他

・所 感

首都ワシントン視察組は19名、行きは汽車、帰りは飛行機を利用した。ホテルから歩いてほど近い駅は薄暗く汚らしい感じがする。誰かが、こんなに暗くては犯罪も起きるだろうといった。構内だけでなく車内も暗い。3時間45分、ゆったりと汽車の旅を楽しんでユニオン駅に着く。早速、バスに乗り込み「光子・ORR」さんの案内を受ける。今までテレビや写真でしか見たことのない国会議事堂やホワイトハウスを「なるほど、これがその建物か!!」と心の中で自分に言い聞かせるようにして眺める。また、白大理石の美しいギリシア風の建物であるリンカーン記念館の巨大さに目を見張る。周囲の緑が大変に美しく、北欧に再び来たような感じさえする。建物も余り高いビルがなく、全てが整然と計画されて出来ている。やはり来てよかった!!或る先生曰く「ワシントンは一度見ればもう見なくともよいなあ」これはニューヨークと比較されての言葉であるが、小生もそのように思う。昨日と今日で、アメリカの二つの顔をみたことになる。（注：昨日は、ニューヨークを視察済み）



アーリントン国立墓地（左）とケネディ元大統領の墓（右）

(2) 海外研修の成果

新潟東高校 教諭 浦 壁 英 紀

これは、この度の文部省教員海外派遣団報告書に参加者全員が「随想」として載せたものである。(昭和58年7月30日印刷発行)

今回の研修旅行の目的は大きくいって、外国の教育事情や文化施設の視察と国際親善にあったが、ほぼ所期の目的は達成されたと考える。学校訪問に関しては、デンマークのギムナジウム（普通高校）で教育課程等の説明に当たられた小柄なウラ・ビアン先生の歯切れのよい口調が印象的であったし、商業学校のカペル・イエンセン校長の昼食をはさんでの熱心な説明と私物の葉巻まで持参しての歓迎ぶりは頭の下がる思いであった。

さらに、アメリカのサンバーナディノ市では予想以上の歓迎を受けた。東京の立川市と姉妹都市を結んでいるためか、教育委員会を訪れた際には市長はじめ、教育長、教育委員など合計7名もの人達が我々との話し合いに参加され、建物の内部まで詳しく案内してくださった。そのうえ、教育委員のピリングさんは終始学校訪問にまで付き添われ、現地での補足説明に当たられた。日米間には、貿易摩擦等の未解決な問題もあるが、アメリカは日本を頼りになる同盟国とみていることは確かで、日本の教育に対しても大きな関心を示していた。話し合いの席上非行問題について質問した際に、逆に日本の様子を聞かれ、団長さんが代表して答えるといった一幕もあったほどである。

欧米の教育と日本の教育を比較したとき大きな相違点がいくつかある。まず第一に、学校教育の役割について認識の相違である。サンバーナディノ市統一学区の「教育目標」に「学校は児童生徒の教育の全責任を負うものでなく、児童生徒と保護者が学校と協力して教育責任を分担するものである」とある。すなわち、学校内で起こったことは学校の責任であるが、それ以外の所で起こった事柄は本人並びに家庭の責任と考えるのである。責任逃れのようなものであるが、日本もこういう欧米の考え方を見習い、我々教師は学校本来の仕事に徹すべきだと思う。その他の相違点としては、1クラスの人数が30名以下で大変少ないこと、学校と社会が相互に開かれており、実社会を経験した者がかなり入学していること、個性や適性に応じた実質的な職業教育に力が注がれていること、デンマークの「10年生」にみられるように、形式よりも実質を重んじた教育、すなわち各自の到達度に応じた指導が制度としても指導形態としても徹底していること、北欧では、教科書の採択や授業の進め方が生徒代表も加わった委員会で決定されるなど、今後の日本の教育を考える際に大いに参考になるものばかりである。

文化施設の面では、イギリスのウインザー城や大英博物館、デンマークのフレデリック城がすばらしく、もう一度ゆっくり観たい気がする。また、ウエストミンスター寺

院、グロンドビ教会といった西洋の本物の教会をみれたのも有益であった。国際親善の面では、3回のレセプションを通じ平和のありがたさと人と人との心の触れ合いの大切さを実感したが、とりわけアメリカでのレセプションにおける教育委員長のお礼の言葉が印象的であった。「皆さんは私達から学び、私達は皆さんから学ぶ、今夜は日本とアメリカの“友情”ということを学びました」

最後に、このような貴重な研修の機会を与えて頂いた文部省や県当局に衷心より感謝申し上げたい。



昭和58年5月12日 ロンドンの有名なタワーブリッジ



昭和58年5月13日 文部省海外派遣第6団 イギリス ウィンザー城にて

(3) 北欧見聞記 (特別寄稿)

新潟東高校 教諭 浦 壁 英 紀

県立新潟東高校生徒会誌「じゅんさい」(昭和59年3月1日発行)より

デンマークは日本の九州ほどの大きさしかない小国であるが、首都コペンハーゲン
は人口150万を擁する北欧最大の都市で、「北のパリ」と言われるにふさわしい、世界
的に有名な「チボリ公園」などもある落ち着いた雰囲気のある都市であった。我々が訪れ
たのは五月中旬であるが、春の遅いこの国ではチューリップや桜の花が満開で、観光
バスの窓からは緑のじゅうたんを敷き詰めたような草原の中に黄色いタンポポの花が
点在している風景も見られ、大変印象的で心の洗われる思いがした。

ここでの通訳は静岡県出身のガバッシュ房子さんで、デンマーク語もペラペラなベテ
ランであったが、彼女から公式の学校訪問以外に、この国のいろいろな様子を聞くこ
とが出来た。

日本では、テレビは暇つぶしにかかせぬものとなっているが、ここではそうでない。
チャンネルも自国のものが一つで、お隣のスウェーデンのものが二つ、合計三つしか
ない。今頃、こちらの人々の話題は専ら夏休み(休暇は年五週間とれる)を何処で過
すかということ、夏の短い北欧では当然であるが、暖かい太陽を求めてイタリアや
フランスへ金持ちの人はチャーター機で、もっと遠くへと旅行に出かける。そして、
その日の為に毎日働いて貯金をするのだという。あらゆる社会保障制度の完備してい
る国だから、子供の教育費や医療費は勿論無料である。したがって、日本のような老
後の為の貯金は必要なく、あくまでもレジャーの為である。しかし、社会保障に必要
なお金は国民の税金でまかなう訳で、税金の高いのは日本の比ではなく給料の半分か
らいとられるという。果たしてどちらの制度がよいものであろうか。

さて、デンマークでは個人主義が徹底しており、これが学校教育の基本にもなっ
ている。日本の普通高校に当たるギムナジウムでは、生徒の守るべき校則は一切なく服
装、頭髪、男女交際、タバコ、オートバイ等すべて自由。アルコールパーティでビー
ル位は飲んでもよく、授業中のタバコとジュースは禁止されている程度。「生徒が街
頭でオートバイに乗り事故を起こしたら学校はどうするのか」と質問したら、「それ
は警察の問題だ」と説明してくれた。こういう話をすると生徒諸君はさぞかし羨まし
く思うであろうが、この国では幼少の頃からの躾や公德心に関する家庭教育が厳しく
なされており、このような個人主義のベースになっているものと思われるので、直ち
に日本と比較することはできないだろう。そもそも日本のように簡単に車やバイクが
手に入らないのである。国産車はなく、車の値段も欧州で最も高く日本の2.5倍位す
るという。また、タバコも20本入れが600円もしており、車とタバコは贅沢品として

考えられている。

男女の交際は全く自由で、結婚に対する考え方も日本とは大きく違っていた。すなわち、この国では結婚前の同棲は当たり前なのである。レセプションで私の隣の席にいた22歳の美しい女性は、独身かと思ったら一つ年下の男性と同棲していたし、もう一人の女性は八年間も同棲して子供ができたので結婚したという。この話を聞き、ある先生は「なぜ、そんなに長く結婚しないのか」と質問したら、「結婚する必要がないから」とのこと。要するに、結婚するとは形式的なもので、大切なのは二人の愛情であるという。この点通訳の房子さんも言っていたが、デンマークでは女性だけでなく男性も常に相手からみて魅力的であるように努力する必要があるのだという。そうでないと、たとえ結婚していてもいつ奥さんが他の男性にとられるかわからない。ここまでくると男性にとって、やはり日本は良い国のようなのである。(同棲がはやっている理由の一つに、同棲すると一人でいるより税金が安くなる面もあるようである)

8日間滞在した懐かしいデンマークを後にして、飛行機で北上すること2時間、スカンジナビヤ半島の西海岸に細長く連なる国ノールウエーに着いた。この国はデンマークと正反対で国土の70%は山地で、農地は全体の3%しかないという厳しい自然条件におかれている。空港からホテルへ向かうバスの窓からの眺めは、山あり、清流あり、湖ありで建物の違いを除いては日本の信濃路を走っているような感じさえする。小雨交じりの天候のため周囲は薄暗く、一瞬地の果てに來たのだという気持ちが心をよぎる。ここはデンマーク以上に緯度が高いため、夏場は夜になっても明るくカーテンを閉めないと眠れない。六月の最も昼の長い時は午前一時頃まで明るく、午前四時すぎにはもう夜が明け、逆に昼の短い時には午前十時ころ夜が明けるといふ。そこで、学校の始業時刻はどうなっているのかと聞いてみたところ、一年中同じで、午前八時半とのこと。ノールウエーの観光は何ととっても深く入り組んだ海岸線で有名なフィヨルドであろう。我々も遊覧船で「オスターフィヨルド」を見学に行った。片道2時間ほどであるが、侵入するにつれて両岸が高くそびえたち、雄大な自然が目に入ってくる。折り返し地点近くから雨がひどくなり全員船内に閉じ込められた。しかし、乗り合わせたアメリカ人の観光団と日米の交歓が始まり心温まる思い出をつくることが出来た。遊覧船によるフィヨルド見学は雨のため期待外れであったので、有志で汽車に乗りベルゲンからボス (VOSS) までフィヨルド見学に出かけた。片道、急行で1時間強の距離であったが、車窓からの景色は素晴らしく、写真を撮ろうと思ってカメラを構えると、とたんに汽車はトンネルに入ってしまう、フィヨルドの絶景が見えなくなるという次第で、こういう状態が目的地のボスまで続いていた。こういう所だからこそカヌー競技は強いのだと誰かが言った。車内では、車掌さん達と写真を撮ったりして異国での汽車の旅を楽しんだ。

最後にレセプションのことにふれて拙文を閉じたい。

学校訪問の際、昼食をご馳走になったりいろいろ説明をうけたりしたお礼として、

今度は我々がささやかなプレゼントを用意し、お食事に招待するのがレセプションである。プレゼントは既に日本から各自用意していったが、外人に喜ばれるものはやはり日本独特の物で、着物をきた人形やこけし、飾り物、日本画や墨で描いた巻物等で、中にはソロバンを買っていかれた人もいた。ソロバンや折り紙はパーティの話題提供に大変役立った。

レセプションでは、幹事は座席の決定に大変気を遣う。英語を話せる人を出来るだけ分散して、話題を途切れないようにする為である。このように大変緊張もするが、人と人との心の交流がはかれる絶好の機会でもある。

以上



北回りでロンドンに行く途中、
アラスカのアンカレッジ空港にて



昭和58年5月16日
最初の学校視察、デンマークのエスビヤルク・テクニクムにて



昭和58年5月17日 デンマークの農園で昼食後、牧場見学



昭和58年5月18日
デンマークの商業学校視察後、
校長先生を囲んで



昭和58年5月20日
デンマークの首都
コペンハーゲンの
人魚像と共に



昭和58年5月29日
ワシントンの
リンカーン記念館



昭和58年5月26日
ノルウェーのベルゲン
滞在3日目の最後のレセプション



昭和58年5月28日
ニューヨークの教育文化施設の視察、
自由の女神を背にして

2. 良い教師の条件

昨年10月柏崎市で行われた全県の高等学校教頭会臨時総会で講演された日本経済新聞社論説委員の田村祥蔵氏は「少年時代の感動」と題し、大要次の様なことを言われた：「新潟県の大学進学率は全国最低のところ、今年は5年ぶりに1位上がって46位になったとか、昨年より0.6ポイント上昇したとかいうことよりも、先生方は生徒に理想を語っていただきたい。本県の大学進学率が低いのは理想の低さにあるとすれば、それは大問題である。

理想を語るには先生方から勉強をしてもらいたい。そして、生徒に感動を与えるような先生であってほしい」と。

氏は柏崎高校のご出身で最近の母校の現状にカツを入れたいとお気持ちもあったようであるが、私は従来の学問的などんな話よりも強い感銘を受けた。

こういう話は教頭先生方よりも、直接生徒に接している一般の先生方に是非聞かせたかった。

一般に、良い教師とはどんな教師をいうのであろうか。教わる側の生徒からみると、同僚や管理職更には保護者からみるのとでは、その見方が異なってくるであろう。ここでは、指導を受ける生徒の方からみることにしよう。

生徒の方からみるとしても、目的意識をもち毎日の授業やクラブ活動に積極的に取り組んでいる生徒と、学校生活にさしたる目的意識を持たずクラブにも入らず、勉強よりも友達に会うために毎日登校してくる生徒とでは、良い教師の捉え方がかなり違ってくる。しかし、田村氏がいわれた、生徒に理想を語って聞かせ情熱を燃やして日々の教育活動に当たる教師であれば、どんな生徒にも感動を与え必ずや良い教師と思われるに違いない。何故なれば勉強が好きな生徒も嫌いな生徒もみな同じ人間である。人間である以上、反応の早い遅いの違いはあっても物事に感動し理想を求めるはずであるから。

ところで、教師像は時代と共に変遷してきた。物の本によれば明治初期の「師匠」から、戦前・戦中の「聖職」、戦後の「労働者」そして現在では「専門職」である。専門職とは「高い専門性と職業倫理に裏付けられた特別の専門的職業」だと言われるが、最近の若い教師に欠けているのは教師としての倫理面（教育者としての使命感、愛情、責任感）ではないであろうか。すなわち、生徒に知識や技術を教えることは出来るがそれを通して生徒を教育する（変化させる）ことが出来ない。出来ないというよりも、倫理面の教育を受けてこなかったがために、教師としての使命感や愛情がないといった方が正しいかもしれない。

さて、専門職の必須条件である「高い専門性」を田村氏の言われたことと結び付けて考えてみたい。私は、良い教師の条件として最も大切なことは「自分の専門を大切

にする」ということだと思う。自分の専門を大切に考えておれば教材研究を十分に
して授業に臨むであろうし、そうすればその教科を通じて理想を語ることも感動を与
えることも可能である。すなわち、よく言われることであるが「教科書を教える」ので
なしに「教科書で教える」のである。

例えば数学で、ある定理を教える場合、その定理と他の定理との関連やその定理が
出来るまでの舞台裏、入試問題との関連、更には数学史の一端にまで触れながら授業
を進めれば、生徒にとって面白いし感動を与える授業になるのではなかろうか。

要するに、田村氏の講演を聴いて私なりに良い教師の定義をまとめるとすれば「専
門職としての自覚を持っている教師」ということになる。生徒に理想を語り感動を与
えるには、教師自身が何年たっても常に理想を追い求め、毎日を新鮮な気持ちで過
し、物事に感動する生活を送る必要があると感じた次第である。

(注) 1990 (平成2) 年10月の講演を「数学談話会誌」に載せるためにまとめたもので、勤
務校は県立巻高等学校でした。

数学談話会：新潟大学教育学部数学科卒業生の会

◇古藤先生、ご退官おめでとうございます。

新潟県のみならず日本の数学教育界に多大な貢献をされ、多数の人々に数学の何た
るかを教え、数学教育の進むべき方向を示してくださいました。本当にご苦労様でした。

先生から教えられた一つに「恥を書け」ということがあります。この意味は数学教
育の論文でも何でもよいが、恥ずかしがらずに書いてまとめることにより自分の考え
が整理され、それが後で自分自身の参考になるということです。私などは未だに実行
が伴わないけれども、忘れられない教えです。

これ以外には、「公式は少なく教えて、多く使う」などは生徒に時々教えています。
先生のお話はOHPをよく利用され、国の内外を問わず数学教育に関する本質的な考
え方や最新の情報を情熱的に話され、我々になるほどという感動を与えてくださいま
した。従って、古藤先生こそ現場の我々教師にとってまさに「良い教師」であられた
のです。どうか、ご退官後も健康に留意され、いつまでも我々をご指導ください。

(1991年1月5日 記)

(注) 古藤 怜先生：新潟大学教育学部数学科主任教授

3. 教育の二面性

教頭 浦 壁 英 紀

昨年、学校の校則が全国的に話題になったことがある。頭髮に関してはどこの高校でもパーマや染色は禁止しているが、全ての生徒に守らせるのは大変むづかしい。それで、「現実には全員に守らせることは不可能だから、ある程度大目にみよう」という考え方と、「校則で禁止しており他への影響も大きいので、手を緩めずに指導すべきだ」という考え方とがある。

また、教科に関しても「生徒はさっぱり理解してくれないので、時間数は少なくてもよい」という考え方と、逆に「そうであればこそなおさら多くの時間をかけて指導すべきだ」という考え方がある。

一般に、生徒の現状をみてその実態に合うように指導するという考え方と、現状はこうなので逆にそれを改善しなければならぬという考え方である。このいずれが良いかは一概にはいえない。やはり、その場の状況を十分考え判断することになろう。こういう場面は学校だけでなく家庭においても起こりうる訳で、いずれの考え方をするにしてもその人の教育観の明確化が必要となる。

1987(昭和62)年7月18日 県立西越高校(現、出雲崎高校)「PTAだより第14号」より

4. 己に克つ

学校長 浦 壁 英 紀

今年の体育祭も無事終了しましたが、改善されるべき点も多い。先日、先生方による反省会がもたれ、その中で生徒諸君に是非言っておきたいことがあった。

それは、体育祭の準備を理由に大切な授業に身が入らぬ者が何人もいたとのこと。たとえば、授業態度が悪いので注意すると「昨夜は衣装作りで遅くまで起きていた」という返事で、だから授業などはどうでもよいのだとの態度だという。

学校行事は諸君の学校生活に潤いと変化をあたえ、望ましい人格形成のためにあるが体育祭のような行事がある度に、その前後の授業が一ヶ月も中身の無いものになるとすれば、今後は中止も検討せねばならぬであろう。

何事も、人間気持の持ち方一つでできるもの。勉強でも運動でも良い成績を上げる人は、自分でこうと決めたことは必ずやり通す人である。己の欲望を抑え、己に克つことの出来る人は、人生の勝利者となるのである。

本校のスキー部は昭和62年頃まではすばらしい成績をあげており、藤木良司君(日大卒)や山田和人君(順天堂大卒)という世界的選手も出ている。

私は諸君にいいたい。くじけそうになったら、自分の知っている人(歴史上の偉人でも可)のことを頭に思い出し、弱気の自分に鞭打ってほしいと。

これから暑い夏を迎えるが、物事に熱中すると暑さも忘れるもの。是非とも各人が自分の目標をきめ、己に打ち克って前進してもらいたい。

1991(平成3)年7月20日発行「津南高新聞」(現、津南中等教育学校)より

5. 平成三年度入学式「式辞」

津南高校(現、津南中等教育学校)1年目(校長職最初の入学式)

春の息吹きが日増しに感じられる好季節となりました。本日平成三年度の入学式を挙げるに当たり、来賓各位にはご多用のところご臨席を賜り、誠に有難うございます。

只今 普通科 128名 商業科 90名

の入学を許可致しましたが、将来の期待を担うフレッシュな諸君を心から歓迎いたします。今日の日を迎えるに当たり諸君は勿論のこと、保護者の皆様や諸君を送り出された中学校の先生方もさぞかしお喜びのことであろうと推察し、衷心よりお祝い申し上げます。

さて新入生諸君、諸君は高校生活に大きな希望を抱き、新しい決意を持って本日の入学式に臨んだことと思います。今まで九年間の義務教育を通じいろいろなことを学ばれた訳ですが、その基礎の上に新しい知識や技能を積み重ね、それぞれの目標に向かって大きな飛躍を遂げてください。ここで是非とも諸君に言っておきたいことがあります。それは、高校は義務教育ではないということです。本校に入学した以上は本校の教育方針に従い、自己実現に向けて最大限に努力をしてほしいと考えます。

諸君は、今まさに柔軟な頭脳と充実した体力に恵まれ、その気になれば何でも出来る年頃です。学習面でも、クラブ活動面でも苦しいことにもあえて挑戦し、自分の限界を試してみてください。「鉄は熱いうちに打て」という諺がありますが、三年間の高校生活を何か一つのことに打ち込んでみてください。そうすることにより将来の展望も開けてくるはずです。

本校の創立は昭和23年ですが、当時の津南七か村の多大な財政負担と当時の向学心に燃える勤労学徒の努力により本校の基礎が築かれました。こういう草創の経緯が「七星の校章」となり、現在に受け継がれているのです。諸君が本校に入学し勉強できるのも、こうした先輩や地域の方々のお陰であることを知ってほしいのです。

ところで、21世紀は今年度から数えて丁度10年後にやってきます。その頃諸君は25歳、まさに21世紀のスタートを担う若者であります。10年後の社会はどんな社会であるかは正確には誰にもわかりませんが、次の2つのことは確かであろうと考えます。それは、国内では高齢化が進み老人が益々増えるということ、国外では国際化が進み単に自国の利益の追求だけでなく共存共栄ということを常に考えなければならぬということです。従って、こういう時代に生きる人間にとって大切なことは、「豊かな心を持った人間」であり、「社会の変化に主体的に対応できる人間」であります。

豊かな心とは、自然を大切にし、奉仕の精神を持ち、人の心の痛みがわかる包容力のある人間であります。又、社会の変化に主体的に対応できる人間とは、正しい判断力を持ち、創造力に富んだ個性豊かな人間であります。21世紀の中核となる諸君には

是非ともこのような人間になるべく、高校3年間で精進してほしいと願っています。

最後になりましたが、保護者の皆さんにお願いを申し上げます。本日より大切なお子さんをお預かりする訳ですが、お子さんの教育は学校だけでは出来ません。常に学校と家庭とが緊密な連絡を取り合っていかなければ正しい指導はできないと考えますので、ご協力を切にお願いします。

以上をもちまして式辞と致します。

平成3年4月8日

新潟県立津南高等学校長 浦 壁 英 紀

6. 平成四年度卒業式「式辞」

津南高校2年目

暦の上では今日から3月、春は間もなくやってまいります。

本日ここに、第42回卒業証書授与式を挙げるに当たり、津南町長殿をはじめ来賓各位にはご多用のところご臨席を賜り誠に有難く、厚くお礼を申し上げます。

このように多数の皆様方から卒業生の門出を祝福していただきますことは、卒業生はもとより、本校教職員にとりましてもこの上ない喜びであります。

保護者の皆様、本日は誠にめでとうございます。今日の日を迎えるまでには、何かと心配やご苦労も多かったことと存じますが、我が子の晴れ姿を目の当たりにされて、さぞかしお喜びのこととございましょう。今迄のご労苦に感謝申し上げますと共に、心からお祝い申し上げます。

さて卒業生諸君、卒業おめでとう。諸君は本校に入学以来、普通科・商業科それぞれの学科で所定の単位を修得し、めでたく本校の定めた課程を修了されました。この間、教科の学習や学校行事更には部活動等においていろんなことを学びかつ経験したことでしょう。授業で自分の知らなかったことを知り深い感動を覚えた人、苦手な科目の勉強で卒業まで苦労した人、部活動に全力を注ぎ高校生活が充実していた人、生徒会やホームルーム役員、更にはクラブの部長として各種行事の企画や部員の掌握に心を砕いた人、体育祭や七星祭で各自のアイデアを出し合い思い切り若さを発散した人などさまざまであろうと思います。

いずれにしても、これらの経験を通じ諸君一人ひとりが人間的に成長しているのです。少なくとも入学時よりは思慮深くいわゆる大人になっているはずで、このことを改めて自覚し、本校での貴重な経験を今後に生かし、自信を持って新しい人生にスタートしてください。

さて、実社会に巣立つ諸君の門出に際し、次の二つのことを強く要望します。

一つは「豊かな心を持った人間になれ」ということです。豊かな心とは、真理を求める心・自然を愛し美しいものや崇高なものに感動する心・他人を思いやり公共のために尽くす心であります。今日、日本では「豊かさの中の貧しさ」ということがよく言われます。物は捨てる程あり、食べたい物は何でも食べられ、法に触れなければどんな生き方も可能な世の中です。それ故に、自分本位な目先のことだけを考えている人が多いのではないのでしょうか。特にこの傾向は、苦勞を知らずに育ってきた現代の若者に多いと言われています。人間は一人では生きていけません。また、国際化が進めば進むほど一国だけでは生きられません。人に迷惑をかけず、相手の立場を考えられる人間、全体的に物事がみれる人間に是非ともなってください。

二つ目は「夢を持て」ということです。現在の日本は、何不自由なく余りにも恵まれ過ぎているが故に、敢えて若い諸君に夢を持てと言いたいのです。若者の特徴は何といっても若いエネルギーとチャレンジ精神にあります。夢は実現できるとは限りませんが、夢を抱き明日に向かって生きることにより、毎日が充実してくるのです。

旧ソ連の崩壊による冷戦後の各国の関心は例外なく経済発展と言われています。産業や経済の発展は益々新しい技術を必要と致します。諸君が、自分の仕事にひたむきに従事し研究心を持ち続けることにより、新しいアイデアにきずき、素晴らしい発明に繋がらないとも限りません。世界のホンダの創始者で今は亡き本田宗一郎さんは、「人生というのは何回感激したかで値打ちが決まるのでないか」と言っておられます。

人生80年時代です。諸君の人生は未来に向かって大きく広がっています。夢を抱き、目標を持って充実した日々を送るよう切望します。

ところで、諸君が今日の佳き日を迎えることが出来たのは、ご両親はじめ家族の方々の力強い支えや先生方のご指導、そして友の励まし、地域の人達の心遣いのお陰であります。この機会に各自の胸の中に感謝の気持ちを深く刻んでください。

そして、卒業後も母校を忘れず、後輩達にとっていつまでも良き先輩であってください。

また、日本の何処にいても、世界の何処へ行こうとも決して故郷を忘れないでください。縄文文化のルーツといわれ、四季の恵み豊かなこの故郷は地域住民の誇りであります。仕事に疲れたり行き詰まった時は、自分の生まれた故郷を訪れてみてください。その時は、真澄の中津川や日本一の河岸段丘が諸君を温かく迎え、勇気を与えてくれることでしょう。

最後に、卒業生諸君の前途に幸多からんことを祈念し式辞と致します。

平成五年三月一日

新潟県立津南高等学校長

浦 壁 英 紀

7. 豊かな心

学校長 浦 壁 英 紀

今年も卒業シーズンがやってきました。同窓会の皆様にはスキー部後援会で大変お世話になっていきますので、学校の近況はまずスキー部から申し上げます。昨年の全国総体には14名出場しましたが、今年も10名（男子7、女子3）参加し、女子5キロクラシカルで高野真由美が何と3位になり、他の選手も昨年の順位より、それぞれ良い成績を収めてくれました。

更に今年は、国体にも2名（高野と富沢）出場することができました。これは本人の努力精進はもとより、保護者の皆様の暖かいご理解と顧問教師はじめスキー常任幹事の皆様、更に町当局や関係各位のお力添えの賜と深く感謝申し上げます。

スキー以外では陸上競技が活躍しています。昨年の秋季中越地区大会では、西野真美子が砲丸投げ・円盤投げで共に1位をとり、女子総合で6位になりました。男子でも島田剛男が3千障害で北信越大会に出場するなど頑張っています。

その他、野球部は長年の目標であった1回戦勝ちを果たし、男子バスケ、卓球、バドミントン、女子バレーは今後が楽しみです。また文化部では、書道部が県代表として沖縄の全国総文祭に出品し、吹奏楽部も他校に負けじと練習しています。

更に、部活ではありませんが、商業科の検定でも徐々に良い結果が出ています。

このように地味ながらも最近の本校は着実な成果を挙げてきていますので、同窓の皆様方の限りないご支援を今後ともお願い致します。

ところで、卒業生諸君にお願いがあります。それは、「豊かな心」を持てということです。豊かな心とは、他人を思いやる心・人に親切にする心であり、自然を愛する心、美しいものに感動する心であります。私事ですが、二月の或る日、高速バスで新潟に出張しました。往復のバス代で小銭を使い果たし、帰りの津南行きのバスの中で小銭は五千円札しかないことに気付きました。それ以降どうしようと心中思いつつも、他の乗客の迷惑にならぬようにと終点まで乗ってきて運転手さんに「五千円しかないのですがくずれますか」と言いました。すると年配の運転手さんは「困ったなあ」と言われ、「あそのパン屋で両替してくれますので、行ってみなさい」と言われて、幸いにも快く両替していただき360円を払うことが出来ました。私は、この時ほど人の親切を有難いと思ったことはありません。この運転手さんは、まさに「豊かな心」を持った人と言えるでしょう。

次に故郷を愛し、自然を大切にというお願いです。先日「津南町の文化としての財産」という講演を聴きました。卯ノ木遺跡等からみると津南・中里は縄文文化のルーツであり、首都圏にも誇れる憩いの場としての自然があるが、これらの自然は国民共有の財産として捉えるべきだと言われました。

諸君は今日から津南高校の同窓生です。都会に出る人はいつ先輩にお世話にならぬとも限りません。そして、何年かしたら今度は諸君が後輩の面倒をみてやるのです。これが同窓の絆であり母校愛の精神です。他県に誇れる恵まれた自然と縄文時代からの伝統ある文化を有する故郷を思う豊かな心をいつまでも持ち続けてください。

最後になりましたが、同窓会の益々のご発展を衷心よりお祈り致します。

(注)1993(平成5)年2月27日発行「同窓会報」 津南2年目

8. 経験に学ぶ

学校長 浦 壁 英 紀

三年生の諸君卒業おめでとう。私は昨年4月の始業式で諸君に「何でもよいから何か思い出を持って卒業するように」と要望しましたが、この1年間を振り返ってどうですか？

諸君のような多感な青春時代にいろんな事を経験することは大切なことです。部活動に全力を打ち込んだ人、上級学校への受験勉強に明け暮れた人、生徒会役員やクラブ長として各種行事の企画や部員の掌握に心を砕いた人、体育祭の応援や衣装作りに頑張った人などいると思います。こういう思い出をすぐ言える人は、3年間目標に向かって努力したり、物事と真面目に対峙して、やろうという意欲のあった人だと思います。逆に、何の目標もなく、学校行事等にもいい加減な気持ちで参加していた人がいるとしたら印象は薄いことでしょう。

さて、卒業生諸君、諸君は学校という温室を出て明日から実社会へと旅立つ訳ですが、世の中は学校ほど甘くはありません。遅刻が多ければ職場の上司から注意されるだけでなく同僚にも迷惑をかけますし、職場を離れば「クビ」を覚悟しなければなりません。

こういう厳しい社会に出ていく諸君の饒に「経験に学ぶ」という言葉を贈ります。ロシアの文豪ゴーリキーは小説「私の大学」の中で、人生という大学から得たものは「経験」である旨のことを書いていますが、実際に自分で経験した「経験」ほど貴重なものではありません。その人の経験はその人にのみ役立つものなのです。昨年8月亡くなられた世界のホンダの創始者・本田宗一郎氏も『人生は見たり、聞いたり、試したり』の3つの知恵でまともしているが、その中で一番大切なのは“試したり”であると思う』と言っています。

本田さんは社長であったが、彼の制服は白い作業衣であったと言われる程自分でやってみないと気がすまぬ人でした。これ程でなくとも、自分でやってみる、経験してやることは大切なことです。この時の苦労や苦い経験はその後の人生に役立つのみならず、その人をして人間的にも大きく成長させるのです。

とにかく今の若者は積極性がない、創造性がない、チャレンジ精神に欠けるなどと言われていますが、21世紀の日本を担うのは君達です。自分の人生に自信を持つ意味でも何事も経験し、そこから学び、今後の長い人生を力強く生きていってほしいと切望します。

(注)1992(平成4)年3月2日発行「津南高新聞」津南1年目

9. 教えることと育てること

学校長 浦 壁 英 紀

「夕方、自転車に乗って道路の右だろうが左だろうが通っているが、それを誰が指導し注意するのか」「登校時にバイクの二人乗りの注意をしても、帰りにはもう二人乗りで校門を出てくる。一体、学校は何を指導しているのか」「夜の九時、十時に男の車で出て行き、帰りは午前さま、それもほとんど毎日のようです。親は何も知らないのでしょうか。学校側ではどう思いますか」これらはいずれも私が本校に着任してきてから今日までの約二ヵ月半の間に耳にした町の人々の声です。最初のものは高校生とは限りませんが、あとの二つは本校生徒のことです。

一般に、最近の若者は礼儀を知らないとか交通ルールを守らないなどと言われますが、このような躰や公德心はその時だけ教えたからといって身につくものではありません。「三つ子の魂百までも」という諺がありますが、幼少の頃から繰り返し教え、体が自然に正しい行動をとるようにしなければならぬものです。

ですから、挨拶、言葉遣い、服装、遅刻、人に迷惑をかけない、規則を守る、公共物を大切にする、人の物に手を出さない等は学校で教えるのではなく、家庭でそれも小学校低学年頃までに正しく教え、身につけさせてほしいのです。このように言いますと学校は責任逃れをしているようですが、決してそうではありません。学校もあきらめてはいませんが、高校生になってからではもう手遅れなのです。

昔から、学校教育の目標に知育・徳育・体育が挙げられ、この三つがバランスよく教育されることが重要であるといわれています。大まかに言いますと、知は頭を鍛えること、徳は心すなわち人間性や公德心を育てること、体は身体を鍛え運動能力を高めることです。

ところで、学校での指導内容には各教科（国語、体育等）と各教科以外の特別活動（学校行事、クラブ活動等）の二領域があり、先ほどの目標の徳育は主に特別活動により達成されますが、この時数は各教科の時数に比べ比較にならぬ程少ないのです。この点からしても、学校での徳育の指導は期待できないといえます。

さて、私が強調したいことは、教育には文字通り教える面と育てる面があるということです。そして、教える面は本人がその気になれば三年間にかなりの向上が可能です。育てる面の徳育などはテストで仮に百点を取っても実行が伴わなければ意味のないものです。すなわち、躰や公德心を身に付けさせるには、農作物を栽培するように時間と忍耐と愛情がいるのです。

冒頭に挙げた例はごく一部の生徒で、他の大部分は皆良い生徒です。これからも各家庭で、教育の育てる面に目を向け続けていただきとうございます。

（注）1991（平成3）年7月20日発行「PTA広報七星」、津南1年目

10. 平成五年度入学式「式辞」

長岡工業高校1年目

四月の声を聞くと共に校庭の桜のつぼみも一段とふくらみを増してきました。本日、平成五年度の入学式を挙げるに当たり、ご多用のところPTAの会長・副会長様のご臨席を賜り誠にありがとうございます。

只今 全日制過程 6学科 354名

定時制課程 1学科 20名

の入学を許可致しましたが、希望に燃えたフレッシュな諸君の入学を教職員一同心から歓迎いたします。今日の日を迎えるに当たり諸君は勿論のこと、保護者の皆様や諸君を送り出された中学校の先生方もさぞかしお喜びのことであろうと推察し、衷心よりお祝い申し上げます。

さて、新入生諸君、諸君は今まで九年間の義務教育を通じいろいろなことを学ばれた訳ですが、その基礎の上に本校での新しい知識や技能を積み重ね、本校の教育方針に従い自己実現に向けて最大限に努力をしてほしいと考えます。

本校は明治36年県下唯一の工業学校として創立された最も歴史の古い工業高校であります。校舎は当初、中蒲原郡村松町にありましたが、その後長岡の地に移り現在地へは今から53年前の昭和15年に移転されました。創立以来90年、その間度重なる校舎移転や戦災による校舎の焼失等いろんな苦難を経て、今日のような環境にも恵まれたすばらしい学び舎となったのであります。

本校は単に歴史が古いだけでなく産業界はじめ各界に立派な先輩が多数おられます。この体育館に掲げられている校歌は、昨年の90周年を記念して昭和31年化学科卒の書家金子大弦先生揮毫のものですし、玄関前の「飛翔悠久」の像は昭和16年電気科卒の陶芸家月形那比古先生制作のものであります。これらの作品を朝夕眺め、伝統校への入学を誇りに思い先輩に負けずに精進努力してほしいものです。

ところで、産業や経済の発展は益々新しい技術を必要とします。資源の乏しい我が国の生きる道は、立派な製品を生み出す工業技術力に頼らざるを得ません。将来の中堅技術者を目指す諸君には熱い期待が寄せられています。

本校の教育目標はまさにこの中堅技術者の育成にあります。しかし、単に技術を身につければよいではありません。高校生としての一般的教養を身につけ、豊かな人間性と積極的な実践力を兼ね備えた技術者でなければなりません。

豊かな人間性とは、真理を求め美しいものや崇高なものに感動し、他人を思いやり公共の為に尽くすことの出来る人間であります。日頃の授業を通し真の実力をつけると共に、学校行事や部活動等において友情を深め、気力・体力の充実と人間性の陶冶に努めてください。

最後にもう一つお願いがあります。それは、何でもよいから「夢を持て」ということです。現在の日本は何不自由なく余りにも恵まれ過ぎているが故に、若者は小市民的になり過ぎていると言われています。若者の特徴は何といっても若いエネルギーとチャレンジ精神にあります。今は亡き世界のホンダの創始者・本田宗一郎氏は「人生というのは、何回感激したかで値打が決まるのでないか」と言っておられます。一人ひとりが高校生になった今日を期して将来への夢を持ち、その実現に向けて最大限努力してほしいと願っています。特に定時制の諸君は、仕事と勉強の両立は大変でしょうが、初志貫徹、卒業に向けて頑張ってください。

最後になりましたが、保護者の皆様をお願いを申し上げます。本日より大切なお子さんをお預かりする訳ですが、お子さんの教育は学校だけではできません。常に学校と家庭とが緊密な連絡を取り合っていかなければ正しい指導はできないと考えますので、ご協力を切にお願い申し上げ式辞と致します。

平成五年四月八日

新潟県立長岡工業高等学校長 浦 壁 英 紀

11. 新任のご挨拶

同窓会会報より(長岡工業高校着任)

私はこの4月、伊藤 惇前校長の勇退に伴いその後任として津南高等学校から転任してまいりました。昨年は本校創立90周年を盛大にお祝いされた由、まことにめでとうございました。県下一の歴史と立派な伝統を誇る本校に勤務できますことを大変喜んでいきます。微力ながら精一杯勤めますので、同窓各位の変わらぬご支援を切にお願い申し上げます。

さて、本年度は全・定合わせて新入生373名を迎え、生徒数1,026名、職員数104名でスタート致しました。恒例の運動会はあいにくの雨でしたが、生徒諸君は最後まで立派に参加してくれまして、さすが長工生であると感心しました。また、部活動の方も年々生徒・職員共に熱心で、同窓会よりご支援をいただいておりますが、資金面でうれしい悲鳴を上げています。私は学校の活性化を図るには授業は勿論のこと、放課後の部活動を盛んにすることが大切であると考えます。そして、生徒には常に「伝統校に学ぶ誇りを持て」と言っています。この自覚があれば、他校に負けまいとする意地も出ますし、悪いことも出来ないと思うからです。

今後とも母校に対し物心両面のご支援をお願い申し上げますと共に、皆様方の益々のご健勝とご活躍を祈念申し上げご挨拶と致します。

(学校長 浦壁英紀)

12. 本田宗一郎さんのこと

学校長 浦 壁 英 紀

「長岡工高図書館ニュース」新任の先生方をお迎えしてより、平成5年7月20日発行

世界のホンダを育て上げた本田宗一郎さんが約2年前に亡くなられた。本田技研工業の創設者であり、オートバイや自動車のエンジンの発明で世界的に有名であることは諸君も知っていると思う。現在のバイクの前身は自転車にエンジンを取り付けたものであったが、これは本田さんが「人々が自転車で坂道をのぼる際に何とか楽にのぼれぬものか」と考えられての発明であるという。

私が諸君に本田さんを紹介するのは、この人の業績を知ってほしいではなく、本田さんの「物を作る際の心構え」や「仕事に対する考え方」を知ってほしいからである。本田さんは技術者であるばかりでなく、技術に対する明確な信念の持ち主であり、その上一流の経営者であり、教育にも大変関心がおありでした。

本田さんは、人間の幸福を技術によって具現化することを技術者の使命と考え、次のような技術思想を持っておられた：

- (1) 世界的視野で仕事を進める
- (2) より廉価で優れた性能の商品を社会に提供する
- (3) 失敗を恐れず勇気をもって新たなチャレンジを繰り返す
- (4) 実証を重んじ社会のニーズに応える

本田さんは、自分が作ったものを使う人のことを心から考えられ「こわれることは、こわれないことよりも絶対に悪い」と言って、お客からのクレームに真剣に応じておられたという。

将来、技術者として生きるであろう諸君に是非とも本田さんのような技術に対する思想や仕事への執念を持ってほしいと心から願っている。そして、生きる為だけ、自分の為だけの職業（仕事）でなしに、世のため人の為を常に念頭におき、少しでも良い製品作りを目指して働いてほしいのである。

斯くいう私をはじめ我々教育者も、教育に対する自分なりの明確な思想や哲学を持たなければならぬことは当然であるが――。

長工生よ誇りを持って、そして、常に前進せよ！！

13. 日頃のご支援に感謝して

長岡工業 2 年目

長工同窓会会員だより(平成 7 年 2 月 27 日発行)

明けましておめでとうございます。同窓会の皆様には日頃何かとお世話になっておりますが、本年もよろしくお願い致します。

さて、今年は十二支最後の亥年であり、亥年には災害が多いとか言われますが、1 月 17 日に兵庫県南部地震が発生しました。昭和 23 年の福井地震を上まわる戦後最大の大惨事で、死者 5 千人以上、避難住民 27 万 7 千人とのこと。

本田事務局長さんの話では、人命にかかわるような罹災者はおられないようですが、関西の同窓会員の方々に心からお見舞申し上げます。各地からの救援が続々と行われていますが、本校でも校友会が中心となり生徒と職員の義援金が日赤に送られました。生徒の中から募金の話が自然に出たことは、私としても大変うれしく思います。

ところで、同窓会より昨年寄贈された「枝垂れ桜」は、夏の猛暑にも耐え何とか活着したようです。西日の照り付ける場所でしたので、一時は枯れてしまうかと心配しましたが、警備員さんのご協力もありホースを延長しての水やりが功を奏したようで安心しました。

同窓会からは部活動活性化の為に毎年ご援助をいただいておりますが、今年度は「学校案内」の作成にも大変なご支援をいただき感謝に堪えません。カラー写真入りのパンフが中学生の心をつかんだようで、先日の推薦入試志願者は昨年より 39 名も多く、特に機械科は 1.7 倍もありました。長岡学区の今春の中学卒業生は昨年より約 40 名減少し、しかも普通科志向という流れの中で昨年以上の応募があったことは、日頃の本校職員の努力もさることながら、同窓諸兄の当地域におけるご活躍がこういう場合にも影響しているものと考え、教職員一同喜んでいく次第です。

実は昨年 11 月県教委に対しプール建設の陳情を行いました。同窓会からは室賀会長さんと水泳部 OB の志賀さん、西さんに参加していただきましたが、長工同窓会の熱意を県でも高く評価していることを後日耳にしました。プール建設については今後ともご支援の程お願い致します。

さて、部活やその他の教育諸活動も段々活発となり実績も上がってきました。バスケの BSN 杯優勝を始め、今年度は北信越大会に 7 つ、インターハイに 2 つ、愛知国体に 5 つの部が出場しました。定時制でも 3 つの部が全国大会に出ておりますが、その都度同窓会からは激励金をいただき選手も同窓会の存在を心強く思っているものと考えます。

私は 3 学期の始業式で生徒に対し「匠の心」と「気配り」を強調しました。匠とは

昔の職人というイメージが強く、現代には必ずしもマッチしませんが、私はあえてこの言葉を使ったのです。そして生徒に対し、真理や技術への飽くなき探求心と常に最高のものを目指す粘り強さと自負心を持つよう訴えました。

また気配りは、人間社会において常に大切なものと考えます。母校に対する同窓会の変わらぬ気配りに感謝しつつ、先輩の築かれた輝かしい伝統の上に時代に合った新しい長工魂を付け加えていきたいものと念じております。

14. 人間として大事なもの

長岡工業 3 年目

長工生徒会誌「長陵」第78号（平成8年2月25日発行）

今年度、日本の国内では阪神大震災やオウム真理教事件などいろいろなことがありました。では、本校ではどうであったでしょう。

まず、三年に一度の長工祭が行なわれました。天候は必ずしも良くなかったが、校友会（生徒会のこと）役員や係生徒の協力によりますますの成果であったようです。初めての私には、やはり各科の実習公開が印象に残っています。あいにく長岡の厚生会館で行われた産業教育フェアと重なり、ゆっくり見れなかったが、それでも雷の発生や織物実習などを見学でき、良い思い出となりました。生徒諸君も、他科の学習内容がわかり参考になったものと考えます。

また、三年生の進路も比較的順調でした。数年来の不況で求人が昨年より12%も減少しているなか、11月末にはほぼ100%の就職内定となり、進学の方も大学だけ見ても現時点で昨年の合格者数より多くなっています。また、検定でも電検三種で二十年ぶりに2名の合格者を出し、全国で五位の成績でした。

一方、部活動の方も昨年同様7つの部（バスケット、バレー、バドミントン、アーチェリー、陸上競技、水泳、ソフトテニス）が北信越大会へ進み、このうちバスケット、アーチェリー、水泳が全国大会に出場しました。特に、バスケットは長年の念願がかない、創部70周年とも重なって選手を始め関係者の喜びはひとしおのものがありませんでした。その他の部もそれぞれ頑張りましたので、校友会の遠征費は大幅に不足した状態です。また、文科系ではロボット同好会が相撲ロボットの北信越大会で二位と三位になり、全国大会に行きました。

以上は良かったと思われる事柄ですが、逆に良くないことも生活指導面でありました。特に今年度は喫煙が多く、いじめ的事件もあり大変残念に思います。これらの生徒に共通して言えることは、自分の気持や感情が抑えられずに自分本位の行動をとる

ということです。例えば、悪いことと知りながら喫煙をしたり、自分がむかつくといって一方的に他人のせいにして人に当たるのです。

昨年十一月、本県でも初めて「いじめ」により中学生が自殺するという痛ましい事件がありました。昔も友達同士の喧嘩や、強い者が弱い者をからかい半分にいじめることがありましたが、その日のうちに終わっていたり、自殺者ができるほど深刻なものはありませんでした。いじめをなくすには「心の教育」が大切であると言われます。心の教育とは、全てのものを慈しみ思いやる心を持つということです。思いやりとは、孔子が弟子に言ったという「恕」すなわち、自分がして欲しくないことは人にもしないということです。

ところで、現在の若者は自分一人では行動しないとか指示待ち族であると言われていますが、今日のように情報があふれている時代を生きていく為には、いろんな情報の中から自分に必要なものとそうでないものを取捨選択する必要があります。その為には何事も他人まかせでなく、自分の頭で考え決定する必要があります、諸君一人ひとりの自主性や主体性が問われることになります。

進路で自分の目標を達成できるのも、部活動で良い成績を上げられるのも、みな自分がその気にならないと出来ないことです。人間として一社会人として生きていくには、自主性と思いやりが必要です。常にこのことを念頭におき21世紀を単なる技術者でなく、創造的技術者として生き抜いてほしいと心から願っています。



15. 「平成七年度卒業式」 式辞

長岡工業高校最後の年度

本日ここに本校全日制第48回、定時制第44回の卒業証書授与式を挙げるに当たり、ご多忙の中、同窓会長・PTA会長殿をはじめ多数の来賓各位、保護者の皆様方のご臨席を賜り、誠に有難く厚くお礼を申し上げます。このように多数の皆様方から卒業生の門出を祝福していただきますことは、卒業生はもとより本校教職員にとりましてもこの上ない喜びであります。

保護者の皆様、本日は誠にありがとうございます。今日の日を迎えるまでには、何かと心配やご苦労も多かった事と存じますが、お子様の成長した姿をご覧になり、さぞかしお喜びのことと存じます。心からお祝いを申し上げます。

さて卒業生諸君、卒業おめでとう。諸君は、本校の教育目標である中堅技術者を目指し、それぞれの過程、それぞれの学科に於いて専門科目や普通科目の単位を修得し、本校の定めた課程を修了されました。今日までの3または4年間にいろんな事を学び、経験したことでしょう。

苦手科目の勉強やレポートの提出、更には検定試験で苦労や喜びを味わった人、部活動に全力を注ぎ高校生活が充実していた人、運動会や長工祭で思いっきり若さを発散させた人など様々であろうと思います。特に今年度は、3年に一度の実習公開を伴った長工祭の年でしたが、上級生を中心とした生徒諸君の協力で立派に終了しました。その他特筆すべきものとしては、全日制のバスケットボール部を始めアーチェリー部、水泳部それにロボット同好会の全国大会出場や、太陽電池や磁気テープの制作というすばらしい生徒研究など卒業生諸君の活躍による成果の多い一年でした。

ところで、定時制の諸君は仕事を持ての勉強、さぞかし苦労も多かったことと考えます。授業中の睡魔や自由時間のなさなど、肉体的・精神的苦痛や悩みを乗り越えての卒業本当に立派であります。

いずれにしても、今迄の学校生活を通じ、諸君一人ひとりが一定の技術を修得し、人間的にも成長しているのです。少なくとも入学時よりは思慮深くいわゆる大人になっているはずで、このことを改めて自覚し、伝統ある長岡工業の卒業生としての誇りを胸に、自信を持って新しい人生にスタートしてください。

さて、諸君の門出に際し私は次の二つのことを強く要望します。

一つは「個を確立し、将来それぞれの道でスペシャリストになれ」ということです。現在の若者は、自分一人では行動できないとか指示待ち族であるとか言われますが、今日のように情報が氾濫している時代を生きていくには、いろんな情報の中から自分に必要なものとそうでないものを取捨選択する必要があります。その為には、何事も他人任せでなく、自分の頭で考え行動する必要があるのです。また、工業の専門高校

卒業生である諸君には、将来その道のスペシャリストになることが期待されています。スペシャリストとは「高度の専門的知識・技術を有する人」ですが、簡単に言えば「その道の専門家」ということで、必ずしも大学を出なくともよいのです。たとえ大学を出ても、これからの社会は大学で学んだ事だけを生かせる社会ではありません。従って、職業人としてそれぞれの職場で「この仕事なら誰にも負けない」という、その道のプロになってほしいのです。

元広島カープの衣笠選手は長岡に来られましたが、プロ野球選手のプロとは「打つ・守る・走るの中で、これはあいつに任せたら間違いないというセールスポイントを持つことだ」と言っています。どうか卒業後も各々の職場や大学等の教育機関において、将来のスペシャリストを目指し、いつ迄も精進努力を続けて下さい。

二つ目は「豊かな心を持った人間になれ」ということです。戦後50年の我が国の教育で得たものも多い反面、失ったもの、軽視されてきたものの一つに「心の教育」があると言われます。一連のオウム真理教事件やいじめ自殺事件を思うとき、私は心の教育こそ現代社会を揺るがしている諸問題の解決に迫る根源的な鍵になると考えます。従って、実社会に巣立つ諸君に対し、遅まきながらも豊かな心を持ち、住みよい日本を創ってほしいのです。

ところで「豊かな心」とはどんな心でしょうか。豊かな心とは、真理を求める心、美しいものや崇高なものに感動する心、他人を思いやり公共の為に尽くす心であります。科学技術が進歩し、21世紀中には宇宙旅行も夢ではなくなりました。身近な例では携帯電話やパソコン通信、インターネットという情報通信産業の発達が目ざましく、我々の日常生活は大変便利になっていますが、その一方でそれらが悪用されることも考えられます。新技術や新製品の研究開発は大いに結構ですが、それが悪用され、善良な市民が犯罪に巻き込まれたり、迷惑をこうむることがあってはなりません。

世の中が良くなるも悪くなるも一に人間の考え方にかかっています。作家であり国際ジャーナリストの落合信彦氏は次のように言っています「24時間自分のことだけを考える人間は駄目な人間である。国家もしかり。国際化とは、外国語が話せるようになることではない。自分たちよりも不幸な人間に“やさしさ”や“愛”を与えることである」と

諸君の活躍する21世紀の世界は今迄の競争中心の世界から共存共栄の時代に移ります。世界の中の日本を自覚し、自分さえよければという利己的な考え方でなく、物事をトータルに見れる人間、国際的な視野の広い人間に是非ともなってください。

ところで、諸君が今日の良き日を迎えることが出来たのは、家族の方々の力強い支えや先生方のご指導そして友達を始めとする地域の人達の心遣いのお陰であります。この機会に各自の胸の中に感謝の気持を深く刻んでください。本校は伝統校なるが故に立派な先輩が各地に多数おられ、諸君が就職する際には大変助かっています。これが伝統というものです。同窓会では百周年に向けて動き出そうとしておられますが、

新会員となる諸君への期待は大きいのです。先輩諸兄の築かれたこれ迄の実績を今度は諸君が引き継ぎ、後輩達にとり頼りになる先輩でいてください。そして、常に母校を忘れず、機会をみて何時でも訪ねて来てください。その時は、貴重な青春時代を過ごしたこの学び舎や校庭の桜並木は必ずや諸君を温かく迎え、安らぎのひと時を与えてくれることでしょう。

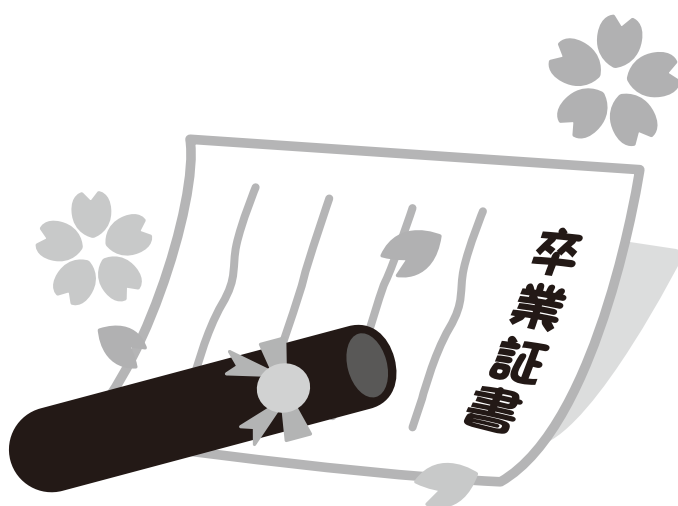
最後に、次の言葉を餞として贈り、前途の多幸を心から祈り式辞と致します。

「意志のあるところ道あり」

平成八年三月七日

新潟県立長岡工業高等学校長

浦 壁 英 紀



16. 平成八年度入学式「式辞」

新潟北高校1年目

四月の声を聞くと共に校庭の桜のつぼみも一段とふくらみ、春の息吹が日増しに感じられる良い季節となりました。本日平成八年度の入学式を挙げるに当たり、ご多用のところPTA会長・後援会長殿のご臨席を賜り誠に有難うございます。只今、318名の諸君の入学を許可致しましたが、希望に燃えた若々しい諸君の入学を教職員一同心から歓迎いたします。

今日の日を迎えるに当たり諸君は勿論のこと、保護者の皆様や諸君を送り出された中学校の先生方もさぞかしお喜びのことであろうと推察し、衷心よりお祝い申し上げます。

さて、本校への入学に際し諸君に次の二つのことを要望します。

一つは「目標を持ち、何事にも積極的に挑戦せよ」ということです。将来を見通した目標が無理なら、本校三か年を如何に過ごすかという当面の目標でよいのです。最近の高学歴志向により上級学校に進学を希望する人が多くなりましたが、推薦入学だとすれば、一年次からの学校の成績を上げておく必要があります。又、就職する場合でも不況下の現在、自分の希望する会社に入るためには早めに準備をする必要があります。いずれにしても、青春時代の貴重な一時を本校で過ごす諸君に対し、思い出をもって卒業してほしいと考えます。勉強でも部活動でもボランティアや生徒会活動でもよいのです。

二年ほど前になりますが、諸君も知っているアメリカのバスケット界スーパースター「マイケル・ジョーダン」選手は、小さい頃からの夢であった野球がやりたくて大リーグ入りを決意した時の彼の発言は大変印象的でした。それは「成功するか、失敗するかは問題ではない。それよりも挑戦しないで、あきらめることの方が我慢できないんだ」と言うのです。自分の人生に対し、なんと前向きな考え方ではありませんか。諸君も高校生になった本日を期して将来への夢を持ち、その実現に向けて悔いのない高校生活を送ってほしいと切望してやみません。

二つ目は「豊かな心を持つ」ということです。豊かな心とは、真理を求める心、美しいものや崇高なものに感動する心、他人を思いやり公共の為に尽くす心であります。

昨年、本県でも“いじめ事件”が発生し、大きな社会問題となりましたが、私は、集団生活に於いて最も大切なことは「他人に迷惑をかけない」ことだと考えます。価値観が多様化し個人個人の生活が自由であるとはいえ、自分本位の考え方で行動されては他人が迷惑します。本校での三年間に一人前の社会人としての基本的生活習慣や考え方を身につけ、多感な年頃の今こそ感性を磨き自己を高めてください。

さて、今お話した二つのこと即ち「目標を決め、豊かな心を持って何事にも積極的

に挑戦する」ことは、本校の教育目標とも合致するのです。本校は創立十四年目のこれからの学校で、今まさに北高の校風や伝統を築き上げていく途上にあります。その意味でも諸君の三年間の活躍が期待されているのです。諸君の中で、中学時代に何かの切っ掛けでやる気を失いかけた人がいるとすれば、環境が大きく変わった本日を期して気持ちを切り替え、是非ともやる気を出してほしいのです。諸君がその気さえあれば先生方はどこまでも面倒をみられるはずです。幸い本校には学識豊かで熱心な先生方が揃っています。部活動でもそれぞれ着実な成果を上げています。一日も早く学校になれ、充実した楽しい高校生活を送ってください。

最後になりましたが、保護者の皆様をお願い申し上げます。本日より大切なお子さんをお預かりする訳ですが、お子さんの教育は学校だけでは出来ません。常に学校と家庭が緊密な連絡を取り合っていかなければ正しい指導は出来ないと考えます。従って、学校任せでなく親権者としての責任を常に自覚され、学校と手を携えてお子さんの指導に当たっていただきますようお願い申し上げます。式辞と致します。

平成八年四月八日

新潟県立新潟北高等学校長 浦 壁 英 紀

17. やさしさとたくましさ

新潟北高校長 浦 壁 英 紀

六月二十三日付けの新聞によると、教員養成制度が約十年ぶりに抜本的に見直されることになった。これは、最近のいじめや登校拒否の深刻化、国際化・情報化などに対応できる教員を育てるためだという。いじめについては、昨年十一月に上越市で中学生が自殺するという事件があり、心から憂慮している。本県の今年四月からスタートした「第七次総合教育計画」の基本的考え方の一つが「やさしさとたくましさを育む教育」であり、これを受けて具体的施策がつけられた。

このように、制度を改めたりいろんな指導を試みても、いじめや登校拒否がなくなりそうもない。それは、これらの事象が人間の考え方や心の問題に帰着し、小さい時からの育て方や生活体験に係わっているからだと考えられる。

昨年、長岡で北陸四県の数学教育研究会があり、講師の藤原正彦先生（お茶大教授）は「情緒」の大切さを強調された。この場合の情緒とは、感情を表す時の情緒ではなくより高次の意味の情緒で、他人の不幸に対する敏感さや正義感、愛国心、懐かしさというようなもので、例えば、一週間何も食べない乞食が死にそうで街角のパン屋からパンを一個盗んで逃げた。これを見た或る人は、日本は法治国家だから警察に通報

しなければと考えたが、別の人、ああかわいそうと見て見ぬふりで通り過ぎた。このように、出発点（前提）をどう選ぶかで結論は大きく異なり、我々が物事を判断する場合にどういう出発点に立つかはその人の情緒力によるというのです。

今は亡き数学者の岡潔先生は「情緒とは何ですか」と聞かれ「野に咲くスマイルを美しいと思う心です」と言われたそうですが、何となくわかるような気がします。美しいものに素直に感動し人の喜びや悲しみがわかる人間、目標をきめ自分の人生にたくましく挑戦する人間、そういう人間が一人でも多く育つことを心から願っている。

新潟北高PTAだより（平成8年7月19日発行）より

18. 「心の教育」 雑感

新潟北高校長 浦 壁 英 紀

去る十一月に柏崎で作家の五木寛之さんの「不安の時代を生きる」という講演を聞くことが出来たが、概要は次のようなものであった。

戦後五十年、日本人は経済復興を目指し、より豊かになることのみを追求してきたがその裏で、悲しむこと、憂えること、涙を流すこと等をカットしてきた。そのつけが今日の社会にいろんな事件（オウム真理教の事件や、神戸の小学生が殺害された事件、金属バット殺人事件等）として現れているのではないか。

悲しみを切り捨ててきた時代には本当の喜びはなかったし、悲しい時に本当に悲しみ、泣くことの出来ない人間に、本当の笑いなど出来る訳がない。本当の喜びをつかむためにも悲しみを大いに出すことが大切である。

そういえば、最近のテレビ番組は昔のようなメロドラマが少なくなり、若者向けの歌やクイズそしてギャグで笑わせる番組が多くなった。やはり今の時代は、暗さよりも明るさを、涙よりも笑いを求めているのだろうか。学校でも暗い感じの者は仲間はずれにされてしまうとも聞く。

ところで、一連のいじめ自殺事件や神戸小学生殺害事件を受け、全国的に「心の教育」が緊急課題となり、第十六期中教審より来年には答申が出る予定である。しかし、心の教育と口では言うが漠然としていて何をどう教えればよいのだろうか。中教審では多分「豊かな人間性」や「社会性」が中心となろうが、私は「思いやり」を心の教育の中核と考えたい。具体的には、悲しい場面や、思いやりが必要な場面（ボランティア等）を体験させるとよい。しかし、日常のちょっとした出来事を取り上げ、子供達と話し合い、考えさせてもよいと思う。それには、新聞やテレビのメディアを利用してはどうか。テレビ番組では、大人と子供が一緒にみて感激し感想を話し合えるものの数は少ないが見受けられるし、更に新聞を利用すれば国語の勉強にもなり一石二鳥

である。

先日の日報にのった、県弁護士会主催の「人権作文コンクール」で最優秀賞になった高校三年生の「祖母から学んだ高齢化問題」という作文を読み大変感動した。ぼけ老人であった彼の祖母を自分も手伝い最後まで介護した体験を書いたもので、心の教育の教材に最適と思った。それにしても、子供達に人間にとっての「涙」の大切さを是非とも教えたいものである。

新潟北高PTAだより（平成9年12月24日）より

19. 考えさせる数学教育

高教研数学部長(新潟北高等学校長) 浦 壁 英 紀

平成9年度の高教研数学部会の活動も予定どおり終了し、研究集録第36号をお届けすることになりました。本年度も例年にならって、6月には上越で新潟大学の入試問題を中心とした研究会、11月には中越で全県の研究会、1月には下越で地区研究会を実施してきましたが、当番校の校長先生はじめ数学科の先生方本当にご苦労様でした。全県の研究会ではお忙しいところ、2人の先生から日頃の実践を踏まえた発表をしていただきました。当日は、時間的にゆとりがなく質疑の時間が十分とれなかったのも、この点は来年度の反省にしたいと考えています。申すまでもなく高教研は先生方の大切な研修の場でありますので、当部会の活動がますます活発になることを心から願っています。

ところで、現行の学習指導要領が実施されて今年度で4年しか経っていませんが、既に次の改訂に向けて作業が進んでおります。これは、学校週五日制完全実施に向けての改訂ですが社会の移り変わりの激しさをつくづく感じます。

昨年11月に教育課程審議会が「教育課程の基準の改善の基本方針について」（中間まとめ）を発表しました。それによると、新しい改訂での高等学校数学科の科目構成は、現在の基本的な枠組み（コアとオプション）を維持しつつも、次の2点について検討がなされているようです：

- ① 現在の必修科目について、その内容の一部を選択科目へ移行したり、選択科目内での選択必修を拡大する。
- ② 数学史的な話題や、日常の事象について統計的処理等の内容を採り入れた科目（仮称「数学基礎」）を新設する。

このように新しい科目が新設されたり、科目の内容がどのように変わろうとも数学教育では生徒に“自ら考えさせること”が大切であります。最近とみに、苦労しないで結果だけを求めたがる生徒が増えてきていますが、こういう生徒に対しても我々教

師は指導法を工夫し少しでも考えさせるようにしなければなりません。従って、一時間の授業をするにも準備が必要です。全県の研究会でご講義をいただいた何森 仁先生は、いろんな小道具を工夫されて生徒の指導に当たっておられるようで、大変参考になりました。先生は、「数学教育の楽しみ」と題してお話しされましたが、「数学が嫌いな子がいたら好きにしてみる。出来ない子がいたら出来るようにしてみる。これが数学教育の楽しみと考えている」と言われました。我々も数学教師のプロとして深く心に受け止める必要があると考えています。

ところで、理科離れ、数学離れが問題視されていますが、数学や物理の分野でいわゆる英才教育が制度としてスタートしました。名古屋大学など全国8大学で高校生向けの数学公開講座が開かれたり、中・高生に呼びかけて数学コンクールも開かれ、子供達に数学の本当の面白さに触れてもらい柔軟な発想の出来る若者を育てようという試みがなされています。昨年度の本誌に、新潟西高の2人の先生による「オープンアプローチによる数学観改善の試み」という論文が載っていましたが、これなども数学とは静的なものでなく動的なものであるということに気づかせ、数学を学習することの楽しさを生徒に教える一つの試みといえましょう。

本誌が、会員相互の数学教育に関するアイデア交換の場として少しでも明日の教育に役立ち学力の向上と数学に興味を持つ生徒の輩出に繋がるよう心から期待します。

最後に、ご多忙中玉稿をお寄せいただいた先生方並びに編集の労をとられた事務局幹事の方に厚くお礼を申し上げます。

新潟県高等学校教育研究会数学部会発行

「数学教育研究集録」(第36号) 平成10年3月発行の「巻頭言」

20. 工業教育に携わって

浦 壁 英 紀

現在私は普通高校に勤務しているが、工業教育について何か書いてほしいと言われ、工業プロパー校三か年の感想を述べ、責任を果たしたいと思う。

私の勤めた工業高校は県下一の歴史と伝統があり、職員はその道のベテランが多く、自信と誇りを持っていた。しかし工業の素人の校長がきたということで、親切にいろいろ教えてくれた。一年目にいきなり「全国電子機械教育研究会」が十一月にあり、その前の六月には県情研と北情研（共に略称）があった。また、この年から産業教育フェアが行われ、ロボット大会の主管校にもなった。

一方、新設科目である「情報技術基礎」や「課題研究」の研修も行われ、自分でも勉強せざるを得なかった。工業では各科毎の研究会が多くもたれたが、私は挨拶の中で「先生方の成果が生徒の成果に繋がるように」と繰り返しお願いをした。

二年目と三年目には、企業との地区別懇談会や関電研、北信越工化研、北織研等が本県で行われた。このように、三か年の工業高校時代は私にとり文字通り忙しく目新しいものばかりであったが、それだけに充実した日々であり、貴重な経験をさせていただいた県教委に感謝申し上げたい。特に嬉しいのは、多くの企業の方や大学の先生更には同窓の方々と知り合うことが出来たことである。

現在は、進学に有利な普通科を希望する者が多いが、座学に必ずしも向いていない者もあり、特色ある学校づくりが叫ばれている今日、専門高校の存在は大きいと思う。特に、課題研究や実習は自己の再発見にも繋がる。新潟職能短大校の宮坂啓象先生は適性について「夢中になって何かを完成しようとする時、そのことが好きであることを自分で悟る」と言っておられるが、全く同感である。実習や課題研究を中心とする体験学習が多いこと、各種の検定試験で資格が取れることは職業科のメリットであり、忍耐力や根性の養成にも繋がると信じている。

しかし、工業教育にも多くの課題がある。それは、進学対策やいわゆる「くくり募集」の問題、工業高校に接続する教育機関の設置、就職者の製造業離れ、社会の変化に対応した新教科の創設、現場実習の単位認定の問題等々

国づくりは物づくりにある。21世紀を生きる生徒諸君には、単なる技術者でなく創造的技術者として生き抜いてほしいと切に願っている。

新潟県高等学校長協会「協会だより」（新潟北高等学校長）

21. 平成九年度卒業式「式辞」

新潟北高等学校最後の年度

弥生三月、春も間もなくやってまいります。

本日ここに、本校第13回卒業証書授与式を挙げるに当たり、ご多忙の中、PTA会長、後援会長、同窓会長様を始め多数の来賓各位、保護者の皆様のご臨席を賜り、誠に有難く厚くお礼を申し上げます。このように多数の皆様方から卒業生の門出を祝福していただきますことは、卒業生はもとより、本校教職員にとりましてこの上ない喜びであります。

保護者の皆様、本日は誠にありがとうございます。今日の日を迎えるまでには、何かと心配やご苦勞も多かったことと存じますが、我が子の晴れ姿をご覧になり、さぞかしお喜びのこととございましょう。心からお祝いを申し上げます。

さて、卒業生のみなさん卒業おめでとう。皆さんは「厳しく鍛え親身になって教える」という本校の教育方針のもと、所定の単位を修得し、本日めでたく卒業の日を迎えました。この間、いろいろなことを学び、そして経験してきたことと思います。

日頃の授業で数々の苦勞と感激を味わった人、部活動に全力を注ぎ貴重な経験をし、高校生活が充実していた人、生徒会役員やクラブの部長として各種行事の企画や部員の掌握に心を砕いた人、体育祭や北星祭で各自のアイデアを出し合い、若さを思いっきり発散した人など様々であろうと思います。いずれにしても、これまでの学校生活を通じ、皆さん一人ひとりが一定の知識や技能を修得し、人間的にも大きく成長し、いわゆる大人になっているはずです。このことを改めて自覚し、自信を持って新しい人生にスタートしてください。

さて、皆さんの門出に際し、私は次の二つのことを強く要望します。

一つは「自己の適性を知り、その道のスペシャリストになれ」ということです。既に就職が内定している人は、自分に与えられた仕事をまず覚え、それに慣れることに全力を注いでください。そして、その仕事を通じ充実した日々を送るよう努力してほしいと考えます。また、進学する人は卒業までに自分自身を知り、職業に対する自分の適性を知ってほしいのです。適性を知ることは大変むづかしいことですが、新潟職業能力開発短期大学校の校長である宮坂啓象先生は「夢中になって何かを完成しようとする時、そのことが好きであることを自分で悟る」と言っておられます。「好きこそ物の上手なれ」という諺がありますが、好きな仕事をみつけそれに従事することにより自己実現を図り、各々の職場に於いて頼りにされる人間になってください。

ところで、皆さんは最近言われている「ビックバン」という言葉を聞いたことがあると思いますが、ビックバンとは宇宙の始まりとなった大爆発のことです。日本の経済社会は、世界的な大競争時代を迎え、従来の制度や発想が通用しなくなっており、終身雇用や年功序列の見直しなどを含む思い切った大変革を迫られています。従って、今後ますます独創

性に富んだやる気のある人材が求められてきます。元広島カープの衣笠選手は、プロ野球選手のプロとは「打つ・守る・走るの中で、これはあいつに任せたら間違いないというセールスポイントを持つことだ」と言っています。どうか、「この仕事なら誰にも負けない」という、その道のスペシャリストを目指し、根性を胸に秘め、いつ迄も精進努力を続けてください。

二つ目は、平凡ですが「豊かな心を持った人間になれ」ということです。戦後50年の我が国の教育で得たものも多い反面、失ったもの、軽視されてきたものの一つに「心の教育」があると言われます。オウム事件を始めとして、神戸の児童殺傷事件やいじめ自殺事件、そして最近のナイフ事件を思う時、私は心の教育こそ現代社会をゆるがしている諸問題の解決に迫る根源的な鍵になると考えます。従って、実社会に巣立つ皆さんに対し、遅まきながらも豊かな心を持ち、住み良い日本を創ってほしいのです。

ところで「豊かな心」とはどんな心でしょうか。豊かな心とは、真理を求める心、美しいものや崇高なものに感動する心、他人を思いやり公共の為に尽くす心であります。最近の科学技術とりわけ情報通信産業の発達が目ざましく、携帯電話やファックス、パソコン通信やインターネットの利用で私たちの生活が大変便利になりました。しかし、一方ではこれらを利用してのいやがらせや犯罪も発生しております。世の中が良くなるも悪くなるも、いつに人間の考え方に係っているのです。

作家で国際ジャーナリストの落合信彦氏は、次のように言っています「24時間自分のことだけを考えている人間は駄目な人間である。国家もしかり。国際化とは、外国語が話せるようになることではない。自分達よりも不幸な人間に“やさしさ”や“愛”を与えることである」と。

本校では、今年度の北星祭にボランティアをテーマとし、模擬店等の収益金をベトナムに寄付したり、PTA行事の「愛の献血」も昨年以上の参加者がありました。これらの行為は豊かな心の現われの一つと言えましょう。学校は教育の場ですが、実社会こそ人を鍛える本当の意味での人間教育の場であります。各人の生活の中で、自分さえ良ければという利己的な考え方でなく、常に豊かな心を持ち生活するよう強く希望します。

ところで、今日の佳き日を迎えることが出来たのは、ご両親や家族の方々の力強い支えや先生方のご指導、そしてPTAを始めとする周囲の人達の心遣いのお陰であります。この機会に各自の胸の中に感謝の気持ちを深く刻んでください。そして、卒業後は各々の進路により別れ別れになりますが、常に母校を忘れず、校歌の中にある「みずからを超ゆる英知」を持ち、校章の七つ星のように、小さな光であっても世の中を照らす光源体となって、21世紀を堂々と生きてください。

最後に、皆さんの門出に際し次の言葉を餞として贈り、前途の多幸を心から祈り式辞と致します。「意志のあるところ道あり」

平成十年三月七日

新潟県立新潟北高等学校長 浦 壁 英 紀

22. 社会への関心を

学校長 浦 壁 英 紀

新潟北高校生徒会誌 第13号「巻頭言」(平成10年3月7日発行)

今年度の北星祭はボランティアが統一テーマで、模擬店等の収益金をベトナムのオープンハウス建設に寄付した訳ですが、PTAのバザーへの協力もあり成功裡に終了しました。生徒会が「何か社会に役立つことをしたい」と考え、このテーマを設定したことは大変良かったと思いますし、生徒会長のテレビインタビューも堂々としており大変立派でした。願わくば、こういう、人を思う気持ちが一般生徒にも大きく広がっていくことを期待します。

ところで、平成9年(1997)の十大ニュースが年末の三十日に新聞発表されましたが、例年になく暗い、悲しいニュースが多くありました。国内では拓銀や山一証券を初めとする金融機関の破綻、神戸の中学生による連続児童殺傷事件が一位、二位を占めました。私は経済のことはよくわかりませんが、7,500人という従業員をかかえる日本の四大証券の一つである山一の自主廃業は、業界を始め日本経済全体に与えた影響は大きく、その後の金融不安を大きく加速させたようです。かかる経済界の不安定要素は卒業生の就職にも少なからず影響を与えており、皆さんからも大いに関心を持ってほしいと考えます。

また、神戸の殺人事件は人々に与えた衝撃は余りにも大きく、同年齢の中学生はこの事件をどうみたのでしょうか。或る県の中学校では生徒が余り関心がなさそうなので、あえて社会科の授業で先生がこの事件を取り上げたそうです。教育は知・徳・体のバランスが大切だとよく言われます。しかし、徳育の指導は一番むづかしく、この種のニュースを学校で採り上げて、皆で命の大切さや人間としての在り方生き方を話し合ったらどうでしょうか。

国外のニュースで私がここで取り上げたいのは、日本の冷夏やアフリカの干ばつ等のエルニーニョ異常気象や京都での温暖化防止会議のことです。これらの問題は地球規模で対策を講ずる必要があります。今年の元日放送のNHKスペシャル「21世紀に挑む」で、マングローブがなぜ塩分に強いのかを解明し、地球の砂漠化や温暖化防止に役立てようと研究している若い学者が紹介されました。人間が自分達の生活向上の為に科学の力でいろんな物を作りだし、それが公害を生み自然破壊の原因になっているとしたら、先進国の我々一人ひとりが自分の問題として強く受け止める必要があります。かけがえのない地球をいつまでも住みよい惑星として守っていくためには、人間と科学技術は共存していかなければなりません。

私は生徒の皆さんに訴えたい。それは、服装や持ち物、ショッピングやバイト、テ

レビタレントや友人の話題も結構ですが、広く世の中の出来事に目を向け関心を持ってほしいということです。私が昨年度受けた研修会で、ある新聞の論説委員の方は「最近の日本の若者は、さっぱり世界の動きや日本の動きに関心を示さない」と嘆いておられました。世の中が平和になったからでしょうか。また、若者が自分本位の考え方になったからでしょうか。私は若者だけの責任ではないと考えます。いつの時代でも子供は親の背を見て育ちます。若者の考え方は大人社会を反映している訳ですし、その意味では学校教育の責任でもあると考えます。

二年前に東京で行われた国際教育フォーラムで、グレゴリー・クラーク多摩大学長は「日本の教育に望むもの」として、

① 視野の広い人間 ② 創造性や協調性を持った人間 ③ 意欲的な人間の三点を指摘されました。学校は教育の場ですが、実社会こそ人を鍛え本当の意味での人間教育の場であります。21世紀を担う卒業生の皆さん、これからの「人生大学」において、広く社会に目を向け、一日も早く本当に自分のやりたいことを見つけ、健康に留意し充実した人生を送ってください。



23. 生活に哲学を

新潟看護専門学校 学校長代理 浦 壁 英 紀

学園広報誌「はまなす」(第15号)平成19年9月28日発行より

携帯電話は、もともと電話機能中心であったが、現在では写真やメール、ラジオ、テレビ、更には出会い系サイト機能まであり、最近は小学生までも犯罪に巻き込まれているという。これは、買い与える親も悪いが、売る方にも問題がありはしないか。未成年者には、有害サイト閲覧可能な携帯を売ってはならないという規制は出来ないものか。

一般に、企業は売ればよい、金儲けに繋がればよいという考えが強すぎるし、親も子供にせがまればなんでも買い与えるのは教育的ではないと考える。親も企業も政府も社会全体が美しい国造りを目指し、次代を担う子供達の健全育成のために、日常生活において哲学を持ってほしいと痛感している。

地球温暖化が問題視されているが、CO₂の削減やごみ問題、環境保全等いろんな点で日本は欧州（特にドイツ）と比べ、目先のことにとらわれ後々の影響を考えずに、対応が対処療法的であり、哲学がないように思われる。

日本は昔から工業技術立国と言われてきたが、現在では人件費が安いという理由で企業はどんどん海外に進出している。このまま進めば後継者がいなくなり、日本の技術は失われることを危惧している。消費者の方も値段が安ければよしとするのでなく、少し高くても国産の物なるべく買うように心がけてはどうだろう。

ところで、医療福祉の仕事で哲学をもつとはどういうことだろうか。私なりに考えると、やはり本校の教育方針にもある「ケアリングの精神」であると思う。学生の皆さんは既にご存じのように、ケアリングとは、病んでいる人に様々な援助を実践することによりその人の心が癒されるが、一方援助する側の心も癒される。子育ての時に赤ん坊の笑顔に癒されない人がいないように、ケアとは「支え」でなく「支え合い」であり、双方向的なものである。そして、このケアリングの追求には、結果や成果を性急に期待せずに、心を広くもって「待つ」こと、患者さんの声を心で傾聴することが必要であろう。

医療福祉の仕事では、知識や技術は勿論のこと、その人の人間性というかヒューマニティが特に大切であると考えます。そういう哲学・考え方を持った医療人には是非ともなってほしい。

(注)村上市の新潟リハビリテーション専門学校にあった鍼灸学科が新潟に移転され、平成22年4月から校名が新潟看護医療専門学校となりました。

24. 前期の反省と後期への心構え

新潟リハビリテーション専門学校 副校長 浦 壁 英 紀

暑さと台風に悩まされた今年の夏も終わり秋季漂う好季節となりました。今回は学生の皆さんに教務関係の事柄を強く要望します。

それは、今年の4年生の実習で、途中で中止に至るケースが例年より多かったことです。原因は、受け入れ先の施設にもありますが、大半は学生本人の力不足と実習への心構えにあるようです。11月からの3年生の評価実習では、このようなことのないように心してください。

2点目は、再試験該当者が多いことです。日頃の授業や試験に対する考えが甘いのではないかと。人（友達）は成績が悪いので自分も悪くても仕方ない、という考えは捨ててください。あくまでも自分がベストを尽くしたか否かが大切なのです。

イチロー選手は84年ぶりに記録更新をしましたが、彼は「自分が打てなくてもチームが勝てば嬉しい、というのは僕にはあり得ない」と言っています。常にプロとしての自分を意識しているのです。創立10周年では、その道一流の方々の話が聴けます。皆さんもリハビリのプロを目指し、日々の努力を着実に積み重ねてください。

学園広報紙「はまなす」（平成16年10月27日発行）第6号より

25. 「ともしびの灯」に誓う

新潟看護専門学校 学校長代理 浦 壁 英 紀

今年度の「ともしびの灯」は昨年12月1日に行われました。これは昔の戴帽式に当たる行事で、ナイチンゲールの精神を受け継ぎ、今後の実習への心構えや看護師への決意を固めるために、毎年実施している儀式です。

当日は、1年生全員が正装（白衣）で拍手に迎えられて式場に入場し、幻想的雰囲気の中、ナイチンゲール像の親火より各人のろうそくに火をともし、来賓・保護者・先輩を前にして、それぞれが誓いの言葉を述べ2人一組で花道を進み、最後は全員でナイチンゲール誓詞を唱和して終了します。

来賓の中には「大変感動したので、また出席したい」という方もおられます。主役の学生自身も久しぶりに緊張したようですが、この日の決意を胸に目標に向かって今後の学習を頑張ってほしいと切望します。

学園広報誌「はまなす」（平成19年1月25日発行）第13号より

26. 新潟リハビリテーション専門学校の思い出

新潟看護医療専門学校 学校長補佐 浦 壁 英 紀

県北村上の地に、21世紀の高齢化社会を見越してつくられた専門学校は、その任務を新潟リハビリテーション大学に引き継ぎ、平成25年3月、18年間の歴史を閉じることになりました。一般に、閉校というと寂しい感じがしますが、専門学校の建学の精神が一段とリニューアルされて大学に引き継がれましたので、むしろ喜ばしいことと考えられます。

私は平成11年9月から約5年半、教務部長や副校長として学校長を助け、諸会議の運営や学校行事、学生募集等に携わってきました。鍼灸療法学科の開設、学生アパートの火災、学生や教員の不祥事への対応等々……。最も大変であったのは、教員の確保でした。各方面から情報を集め最悪の場合まで考えましたが、卒業生が教壇に立てるようになり難局を乗り切ることが出来ました。

一方、楽しい思い出もありました。新入生の合同交流会でのキャンプ、学園祭でのよさこいソーラン、そして会津方面への職員旅行等です。中でも一番の思い出は、平成16年11月の専門学校創立10周年記念事業に参画できたことです。的場理事長を始め、大澤学校長や皆さんがアイデアを出し合い、「痛み」をテーマに第一線でご活躍の著名な方々の講演やシンポジウム、コンサートなど多彩なプログラムで、充実した3日間でした。

終わりに、新生リハ大が全国的にも注目されるユニークな大学となり、本学園がますます発展していくことを切に祈ります。

平成24(2012)年度、地域と学園を繋ぐ実践集録「ゆめ」(第9号)

「新潟リハビリテーション専門学校閉校記念特集号」より



平成16(2004)年5月14日
新1年合同交流会(キャンプ)

27. 日常を写す



平成10(1998)年7月10日
定年退職祝賀会にて



平成11(1999)年8月29日
校長OB会 会津若松「飯盛山」にて



平成12(2000)年4月8日
クンシランと共に



平成12年10月11日～14日
中国上海「上海中医薬大学」にて

教師生活60年の記録

～書くことで思いを伝える～



平成13(2001)年6月 越前浜の畑にて



平成12(2000)年11月5日
新潟リハ専門職員旅行 野口英世銅像前



平成17年8月
鎌倉の集い「鉢の木」での会席料理



平成17(2005)年8月24日～25日
海外研同期会「鎌倉の集い」



平成18(2006)年9月22日
新潟看護学校祭での小生の小講演



平成19(2007)年3月15日
看護一回生卒業祝賀会



平成19(2007)年4月26日～27日
小諸・上田方面旅行「藤村記念館」前にて



平成23(2011)年6月 庭の藤がめずらしく良し



平成23(2011)8月14日 庭の朝顔



平成19(2007)年7月8日
柏崎常盤高校新潟支部総会 教え子にサービス

教師生活60年の記録

～書くことで思いを伝える～



平成24(2012)年11月13日
京都旅行で東寺を見学して…



平成29(2017)年6月22日
箱根旅行にて



平成29(2017)年11月15日
「古新会」(恩師古藤教授の会)於 新津中野邸



平成17(2005)年7月15日～16日 第1回聖看祭(学校祭)にて

表紙の写真

角田山、標高482m。新潟市西蒲区。四季を通じ登山者多く、
春先きは雪割草とカタクリがきれい。

左側に、弥彦山634mあり。

教師生活60年の記録

～書くことで思いを伝える～

発 行 令和4年2月1日

発行者 浦 壁 英 紀

〒950-2055

新潟市西区寺尾上5-18-34

TEL 025-268-2407

印刷所 阿部印刷株式会社

〒959-1704

新潟県五泉市村松甲2096番地

TEL 0250-58-5115

FAX 0250-58-5750

